



このQRコードからHPを見ることが出来ます。

長崎市立橘小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～
かがやけ ひびけ たちばなキッズ



TACHIBANA TIMES

令和6年11月25日発行 文責 校長 宮原 友彦

◆ 今年度のマラソン大会の実施について

昨年度まで、11月にマラソン大会を実施していましたが、今年度は11月の授業参観が「金融教育」となったこともあり、見直しを行っています。

実は私たち(みなさん方はもっと若いとは思いますが(へへ;))が子どもだった頃は、持久走または長距離走と呼ばれて、体育科の「**陸上運動**」として位置付けられていたことから、どこの小学校でも「マラソン大会」が活発に開催されていました。ところが、その後学習指導要領が改定されて、まず『**体操領域「体力を高める運動」**』、現在では『**体づくり運動「動きを持続する運動」**』に位置付けられて授業で取り組まれています。もちろん、それに併せて目標も変わり、昭和52年指導要領改定時には、「**競走を伴う長距離走は、児童の心身の発達の状況から見て、学校では適当ではない。**」とされ、その性格が変わりました。平成11年の改訂ですでに、

低学年は「無理のない(一定の)速さでかけ足を2～3分程度続けること」

中学年は「無理のない(一定の)速さでかけ足を3～4分程度続けること」

高学年は「無理のない(一定の)速さで5～6分程度の持久走をすること」

と目標が変わっていたのですが、一定の距離を何分で走れるかを競う大会から脱却できない学校がまだまだ多いようです。橘小も今年を機会に、学習指導要領に則り、授業やジョギングタイムなどで、「速く長い距離を競う」ことではなく、「無理のない速さで一定の時間を継続して走り、心肺機能等体力を高める」ことを目標に取り組を進めていきます。

◆ ココロねっこ運動強調月間

今月は「長崎県ココロねっこ運動強調月間」です。
ところで、「ココロねっこ運動」ってご存知ですか？

ココロねっこ運動とは

子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。また、長崎県ではあいさつ運動や地域で子どもを見守る活動など、子どもの健全育成のための取組を「ココロねっこ運動」として推進しています。平成13年度からスタートした運動で、平成20年10月には「長崎県子育て条例」の中で県民運動として取り組むことが定められました。

大人が変われば子どもも変わる

子どもは、親や身近な大人を成長のモデルとします。モデルである私たち大人が、ルールやマナーを軽視したり、人間関係のわずらわしさから他者と関わらずに生活したりしようとするのは、子どものよき手本となることでしょうか？「子どもは社会を映す鏡」です。もし、子どもに問題があるとすれば、それは大人自身の問題として考えてみる必要があります。

できることから、大人から

子どもの育ちには、家庭が果たす役割が重要であることから、第3日曜日を標準日として、家族が子どもを中心としたふれあいを深める日としての「家庭の日」が広がるよう努めています。

※長崎県青少年育成県民会議のホームページから引用

そこで各御家庭では、皆さん御存知の「あ・は・は運動」を意識した取組をお願いします。(長崎市が幼・保・小・中一貫して取り組んでいます。)本年度、橘小では、さらに「は」を足した「**あ・は・は・は運動**」に取り組んでいます。

あ…あいさつ・へんじ げんきよく

は…はやね・はやおき・あさごはん!

は…はきものそろえ いい気持ち

は…はさみあるきをしっかりと!

いろんな年齢の子どもたちが、共同生活する学校というところで、まわりの人を思いやる気持ちが大切です!

宮原のつぶやき

「人は食べたものでできている」「医食同源」という言葉をご存じですが?朝、寝坊してしまうと、つい朝食抜きで…ということがあるようです。例えば、夕方19時頃に食事をとったとして、朝食を抜くと、給食を食べる時間まで、17時間もの間エネルギー源である糖質が体に入らないこととなります。育ち盛りの子どもの心身は寝ている間に栄養分を成長等に使い切ってほぼ0の状態です。午前中がガス欠状態では、できることもできなくなるし、何より頑張る気力が湧きません。朝はしっかり食べることを習慣にしていきましょう!

